

“漢字を書く”ことは急がなくてよい

幼児期からの漢字学習は、特別な道具や知識がなくても、ご家庭ですぐにはじめることができます。その具体的な方法については、3章に詳しく紹介しましたので、そちらをお読みいただくとして、ここでは「漢字を書く」ということに関して、少し触れておきたいと思います。

冒頭でも述べたように、石井式では漢字の読み書きを同時に教えることはしません。それは“書くこと”より“読むこと”を先に覚えるほうが多くの点ですっと理にかなっているからです。

まず、幼児は、まだ手の運動能力が十分に発達していないため、直線や曲線を上手に使い分けて漢字を書くことは、物理的に困難です。

にもかかわらず、読み書きを同時に要求すると、書くことばかりに時間をとられて、幼児期にしかない、ずば抜けた丸暗記能力を十分に活用することができなくなってしまうのです。そして、幼児にとって苦手な“書くこと”を強要すれば、漢字そのものへの興味すら失いかねません。

また、読み書きを同時に覚えるということは、まだ文字の形が十分頭に入っていないうちから書かせることになるため、手本を見ながら書いても、どうしてもバランスの悪い字になってしまいます。

ところが、まず読みから学ぶと、何度もくり返し読んでいるうちに、文字の形も自然と頭に入ってきますから、それから書くことを学んだほうが覚えも早く、きれいな字が書けるようになります。

さらに、くり返し述べてきたように、漢字教育の目的は、漢字を覚えることではなく、漢字で学ぶことによって言葉を豊かにすることにあります。

そうした面からも、漢字は書くことよりも、まず読めて意味を理解することが大事なのです。

特に最近では、パソコンの普及により書くことの重要性が薄れ、学校教育でも徐々に“書く”ことより“読み”を重視するという方向に変わり始めています。

こうしたことから、漢字を書くことに関しては小学校に入ってから学べば十分で、幼児に漢字を書くことを強制すべきではないのです。

ただ、漢字を何百字と覚えていきますと、幼児の中に自然に「漢字を書いてみたい」という気持ちが芽生えてくることもあります。そんなときは、自分の名前など身近な漢字から少しずつ教えてあげてもよいでしょう。